



市民総ぐるみ防災訓練

ると考えている。

問 不足する介護職員の確保策を伺う。

答 東三河広域連合では、新たな人材確保とシニア人材の活用促進を図り、介護職員初任者研修の受講料助成や、介護業務を補助する人材の登録等を行う介護サポーターバンクの設立等を考えている。

今後の防災対策について

問 国の中央防災会議では、東海地震の正確な予測は困難だと指摘している。

防災対策の見直しの考えは。

答 地震は突発的に発生するものとして防災訓練を実施してきている。指摘を前向きにとらえ、市民の防災意識を高めていきたい。大規模災害時に重要な役割を果たす陸上自衛隊豊川駐屯地の隊員数削減についての考えは。

答 国に東三河8市町村長の連名で現行体制の維持について要望書を提出した。引き続き大規模災害に備える観点から要望をしていきたい。

日恵野佳代

無党派・日本共産党

農業スイーツ本の発行を

問 東京でヒットしている農業版るぶのように、市の農産品を使ったスイーツ等の紹介誌を発刊し、新しい農業振興ができないか。提案は今後の参考にしていきたい。

農業従事者の婚活支援を

問 農家にとって後継者は大きな問題である。農業従事者に特化した婚活支援に取り組み考えは。

答 男女共同参画で婚活支援事業を実施しており、農業従事者にも参加していただければと考えている。

豪雨対策について

問 経験したことのない異常な豪雨が多く発生しているが、市の見解を伺う。

答 集中豪雨の正確な予測は困難だが、十分な注意が必要だと考えている。水害について調査したところ、記録が税務課にしか残っていないかった。昭和46年から平成25年までの42年間で30回におよび水害によるり災者が出ている。



災害を忘れないようにする必要はある。水害対策をしっかりとりとるべきだと考えるが、市の見解を伺う。

答 水害が発生しないという考えは持っていない。状況を検証して効果的な対策を今後も検討していくことが重要だと考えている。

大向正義 (自民党市議団)

**立地適正化計画で
中心市街地の高度利用を**

問 中心市街地の有効活用のため、策定中の立地適正化計画において、土地の高度利用を検討すべきではないか。

答 蒲郡駅周辺には容積率400%の商業地域があり、高容積の建築物が建てられる。本計画では、現在の土地利用規制以上に高度利用を図ることは難しいと考えている。

人間ドック事業の収支は

問 人間ドック事業の収支状況を伺う。

答 平成28年度決算では、検査料収入が約5千7百万円に対し、支出が約1億3千2百万円で、市の負担額は約7千5百万円であった。



教育改革の考えは

問 人間ドック事業の廃止による原資を活用することも考えられるが、市の教育改革の目玉である2学期制、少人数学級に続く教育改革の考えを伺う。

答 ICT機器を活用した学習活動を推進し、より効果的な教育ができればと考えている。また、地域コッディネーターの設置など、学校・保護者・地域がそれぞれの責任と役割を果たし、協働して子どもを守る環境の整備や教育課程の研究をしていきたい。